



第 47 号

発行日：令和6年10月16日
発行：一中地区市民委員会
編集：文化広報部会
事務局：一中地区公民館内
TEL：029-821-0104
世帯数：10,618戸
人口：20,434人
(令和6年9月現在)



11月第1土曜日は、「土浦全国花火競技大会」が開催される。一中地区は、多くの来訪者で、まるで渋谷のスクランブル交差点と化し、早朝から夜半前まで、人波が途切れることはない。一中地区の皆さんから、花火は窓から見えるし、ケーブルテレビやラジオ中継で十分、あの人混

みに出かけるのは面倒くさい、という話をよく耳にする。しかし、これでは、地元で開催される日本一の花火大会の良さを理解しないままで、あまりにもつたいない。特に土浦の花火は、小気味よいテンポでプログラムが進行する。理由は、競技大会だから。89作品を一つ一つ採点し、10人の審査員全員の採点直後、次の作品が上がるからだ。

土浦出身の俳優、故三浦春馬さんは著書に次のメッセージを残した。「土浦の花火を見たことがない方は、絶対に足を運んでほしいし、茨城の誇りを見に来てほしい」。いつも離れた高台から見ている三浦さんは、初めて桜川河川敷で花火を見上げて感動を新たにしたい。

自宅からの花火も一興だが、とにかく、一度でもいいから、大轟音とともに頭上に開く10号玉の迫力、花火と音楽がシンクロしたスターマインの美しさ、奇想天外な型物花火など、生

の花火を観覧席で体感してほしい。あつという間の2時間30分、その日からきつと花火の虜になること間違いない。花火ファンの間では、これを、煙分（花火）依存症に罹患したという。

野村花火工業（水戸市）は、土浦、大曲あわせて21回、花火師の最高位となる内閣総理大臣賞を受賞するなど、名実ともに日本一の花火屋だ。今年も優勝候補筆頭であることは間違いない。野村陽一社長は、「花火はカタルシス」と言う。カタルシスは、「心の洗濯」と訳すらしい。花火を見ている瞬間は何も考えないことで、感情の開放につながり、前向きな気持ちになってくるという。花火は、人生に必ずしも必要なものではないかも知れないが、花火師は見ると、渾身の思いを花火玉に込める。まさに、あしたを生きるためのサプリメントだ。

晩秋の土浦、澄んだ夜空で今年1年の集大成とも言えるべき頂上決戦が、間もなく始まる。

【参加者募集】

第3回花火鑑賞士による市民花火講座「土浦の花火2024」
日時：10月27日（日）午後1時30分
会場：土浦市民ギャラリー
主催：土浦全国花火競技大会実行委員会、土浦市立図書館

こどもの広場

楽しかった六日間のキャンプ

中央二丁目 土小六年 草野 宗祐

ぼくは七月二十七日から八月一日まで五泊六日の南会津アドベンチャーキャンプに参加しました。

三年生から九年生まで三十一名が参加しました。ぼくは初めて会う人ばかりでとても緊張してバスに乗りました。

キャンプ場でテントを張りました。しかし雨が降り始め、雨具を着たので蒸し暑くてテント張りが大変でした。

夕食は、飯ごうでご飯をたきましたが、失敗しました。ご飯が冷たかたくなってしまいました。

夜になると雨がやみ、ナイトハイクをしました。ホタルが二、三匹いて星が動いているようでした。

二日目は沢遊びをしました。

ブルーシートを敷いてウォータースライダーをしたり、沢登りをしました。水が冷たくてびっくりしました。岩が暖かく、寒くなったら岩に



くつついていました。

三日目は、登山経験のあるメンバーが一泊登山に出発しました。

ぼくは初めてだったので練習に低い山を登り、落ちている石と枝で焚火をおこしラーメンを作りました。

四日目は登山の本番です。朝七時に出発し七ヶ岳を登りました。

ルートに滝登りがあると聞き、登れるか緊張しました。

滝の下までくると、一段が見上げる高さで、それが六段もあり驚きました。

友達は経験者でどんどん滝を登って行く中、ぼくは遅れて一番後ろを登りました。二段目の滝を登った休けい中にオニヤンマがいました。初めて見るオニヤンマはぼくの手よりも大きかったです。

ぼくは登山ぐつをはいていました

が、岩がゴツゴツして痛かったのに、前を登っていた友達はくつのソールがはがれて、すべりやすい状態なのに速くてすごいと思いました。

八時間登山をした後に入った大きなお風呂がとても気持ちよかったです。

五日目はフリスビーをしたり自由に遊びました。

山の中で電気もなく生活するのがどんなに大変かわかりました。

火をおこすのに十五分はかかるし、冷たい水はすぐにないし、テントにカナヘビも入ってきました。大変だったけど、終わってみると達成感があつてとても楽しかったです。

夏に感じたこと

中央二丁目 土小六年 大屋 圭太

僕は夏休みに針金虫を捕まえましたが。

針金虫は森で遊んでいたときに用水路で水に飛び込んだカマキリの体内からウネウネとでてきました。

針金虫はカマキリの脳を操り川へ飛び込ませ、カマキリの体内から出て、水中に卵を産みます。

卵を産むところを見てみたいと思った僕は捕まえて水槽で観察しました。

予想通り針金虫は産卵しましたが体力を使い切った針金虫は死んでしまいました。

僕は色々な生物に寄生し最後の体力を使い子孫を残す針金虫を見て、命の大切さや、今、人として生きている僕は他の生物に何が出来たのか、自分はどこで頑張らないといけないのだろうか、僕は家族のためにどのような手伝いをすればいいのか、などいろいろなことを針金虫の死によって考えました。

これは僕にとってかけがえのない経験となり、今年の夏休みは永遠の思い出です。

俳句

中央二土小貸し切り水遊び

大屋 圭太



みんなの広場

「わが町 エスバイエル」

エス・バイ・エル・マンション 地区長
菅 勝幸

私が住んでいるエスバイエルマンションは279戸の世帯の皆様が暮らしている地区で、土浦新港と川口運動公園の目と鼻の先にあります。階によっては霞ヶ浦も望むことができます。

町内では毎月、自治会と管理組合理事会と住民の協力により防犯パトロールを行っています。

また年間行事として土浦消防署と土浦市消防団第2分団に協力をいただき自主防災訓練も行っております。

2011年3月11日に起きた東日本大震災の際、当マンションも大きく被害を受けました。(電気・水道・ガスのライフラインが数日間止まって生活に大きな支障が出ました。エレベーターが使用できず8階分の非常階段で水を抱えて登ったのは今でも鮮明な記憶となっております。)

当時の自治会会長(地区長)が災害対策本部を直ちに立ち上げ管理組

合と住民の協力の元、要救助者の確認を行い住民の不安を解消することに注力しました。後に防災井戸をマンション敷地内に3カ所設置も行うなど、その時の経験も活かし、安心・安全で住みやすい町づくりを心掛けております。

私の家族について

虫掛町 地区長 矢口 福一

二年前に私の父親が亡くなる前は、三代夫婦円満で四代目も生まれ、父は近所でこれだけそろっているのは我が家だけと自慢で居りました。その父親も体が丈夫なうちは職業が大工であつたため、我が家も自分で好きなように建て、更には自分用に隠居まで建てて引つ込んでいました。

そして私には二人の娘がおり、長女は近所に縁があつて嫁に行き、二女はお婿さんを迎えてくれました。二十年近く前に、情報誌にあつた子犬差し上げますとの案内を頼りに見に行くと、二女が抱っこして離さないため、仕方なく我が家に犬を連れてまいりました。

その二女が大学の友達の家に遊びに行き、この家見たことがあると友達に事情を話すと、なんと我が家の

わんこの実家だったことが判明して、友達とは今でも仲良くしています。

そのわんこは、十七年間、我が家で家族みんなを楽しませてくれてから昇天しました。

私の父も最後の半年ぐらい前から寝たきりとなり、母と隠居で暮らして居りましたが、本人の意向で病院へはいかない、ここで死にたいとのこと。訪問看護、訪問医療、訪問入浴介護の条件を受け入れてもらい、毎日晩酌をしておりました。

亡くなる当日、じい様が冷たくなっていると、じい様の隣で寝ていたばあ様が、夜明け前に私のところへ知らせにきました。年齢九十歳でした。

その後ばあ様は、隠居で一人暮らしでしたが、ある日腰痛で動けなくなり救急搬送、診察の結果はいつの間にか骨折とのこと、その後私どもも同居し寝たきり状態で三か月。しかし完全復活。トイレも、お風呂も庭の草取りも自由自在、食事も美味いとのことでした。

我が家の自慢話でごめんなさい。

賑わいのある街の復興を願う

桜町四丁目 新井 幸男

後期高齢者となった今、若かりし頃の思い出は、一言では語り切れないほどありますが、ひとつ、懐かしく感じられる思い出と言えば、賑わいのあつた土浦であり、その少年時代を振り返り、語ってみたいと思います。

夏休みに入って直ぐと言えば「土浦祇園祭礼」です。当時私は大町に住んでおり、祭礼では山車が出され子ども達も沢山参加しておりました。私は父親が祭好きであつたこともあり、今では殆ど見られませんが引き綱の先頭に立つ「手古舞」として参加し、特注のたつつけ袴に刺繍入りの襦袢を羽織り、手には弓張提灯と金棒を持ち、疲れながらも楽しい一時でした。近隣の町からも沢山の人が見に来られ、今はまた違った賑わいのある祭礼でした。

そして、八月になると「土浦七夕祭り」、現在の中央二丁目・二丁目、川口町、大和町の通りには、各商店が竹竿に大きな花飾り(ぼんぼり)



をいくつも吊り飾り、道路全体が一杯になるほどで、その中を手で振り分けながら歩くのが楽しみでした。歩道のあちこちでは露天商の店が並び、街角ではお化け屋敷なる小屋も出され、アーケードの上では着ぐるみの怪物が出る見世物もあって、子供から大人まで多くの人達が楽しい時間を過ごしていました。

又、夜には亀城公園本丸内に櫓を建てての盆踊り大会があり、浴衣を着て大勢の人が踊って楽しんでいました。「土浦小唄」というレコードもその当時作られたものでした。

そして、お盆には桜川での「灯笼流し」、今では考えられませんが、送り盆として当時は仏壇に飾ったお供え物を敷きござに包み、家族で盆提灯をぶら下げながら桜川まで行き流しておりました。

こうしたことは昔を懐かしむ老人の語りごとではありますが、近隣の町からも沢山の人が訪れ商人の街であった土浦は、今ではない賑わいのある活気ある街であったことは確かです。

最近、そうした復興を願う一部の人が「土浦界限まちづくり研究会」という独自のグループを立ち上げ、活気ある賑わいのある街の復興にと

独自のイベントを計画し活動しております。近隣の人達を引き寄せる土浦の街づくりには市民が一体となって活動していくことが必要であり、私も強く願っている一人です。

老年を幸福に生きる おひとりさまの「ほんとうの幸せとは？」

城北町 富田 兼輔

一 わたしの幸福の今

幸福とは、人それぞれに幸福に対する概念の差があつて、一つとして同じものはありません。

衣食住の満足が幸福と思う人。富や地位も何もいらぬ。この恋さえ買えば心中しても幸福と思う人もいます。

子供に恵まれないと嘆く親。子供の暴力に脅えて子供を持ったことを不幸と嘆く親もいます。コロナ禍の中、伴侶がいない孤独と向き合い自分らしく生きることを模索してきました。

私が米寿の年まで生きて、はじめて分かった幸せの意味。幸福の実感。それは、在宅での「妻の介護」で気付いた「本当の幸せ」です。

はた目には、老々介護で「大変だ」「不幸」と見えた妻の介護も、今、私には、不思議なほど、何物にも代え難い人生の幸福感を味わっています。

す。私は、この為にこの世に生まれてきたのだとさえ思っています。彼女の介護は、私の「ほんとうの幸せ」でしたと心から感謝しています。

二 一人で老い、一人で死ぬ社会の理解と生活

気楽で悩みもなし、おひとりさまの大往生のカギは「プロの介護」「世帯分離」「人つきあい」であると巷の識者は言っています。

また、男おひとりさまには、過去一週間誰とも話をしていない「孤立」の割合が高いとも言われています。

妻に先立たれた私は、現在、「男おひとりさま」です。

今、私は「おひとりさま」を楽しむために大切にしていることの二つに「人つきあい」があります。

退職後孤立している男性たちは、長い間、社会人、組織人として生きて会社の中で、上司、部下、同僚と言葉を交わし、マネジメントもしてきました。しかしそれは、指揮系統の確立した会社組織のコミュニケーションであつて、人間関係を損得でしか考えてこなかったからでしょうか。

当然のことですが、「人つきあい」では、過去の栄光を誇らないこと、ひとの話をよく聞くことが大切で

す。



介護保険、医療保険があれば、ひとりでも死んでいける今の日本の医療・介護サービスは有難いもの

三 存命のよろこびの中で「自分らしく生きる」

この世は所詮不条理なものです。妻を失くして涙に明け暮れた毎日。忘却を誓う哀しみを、今では、皆様のご配慮などにより「孤独を楽しむ人生」に替えて暮らしています。今年で、満九十二歳。老年になつて人の評価に価値を置く世界から、その人の本質が問われる内面の充実に価値を置く世界に目が行きます。

晩年こそ、人間の本来である「人格」を豊かにして、内面生活を高めることが大切であると思っています。

また、デイサービスで友愛の絆を結んだ人の死に限りない哀しみを覚

え、哲学者・宗教者がもとめる幸福の真理を勉強したいと思っています。

「若い」、「病」、「死」を痛感する
とき、唯々「私の幸福の今」に心から感謝しています。

私は、よく生き、よく笑い、良い死と出会うため、これから残された時間という人生の山を一步一步「孤独の醍醐味」を味わいながら天寿を全うしたいと思っています。

同好会だより

健康太極拳・美鈴会

美鈴会 下田 恵子

太極拳は「ご存じですか?」

何だか難しそう!! 宇宙遊泳みたい!! と、思われている方も多いと思います。

でも、太極拳はとても楽しいです。呼吸法に依る健康法です。私は週二回、火曜日と水曜日に行っています。火曜は武道館、そして水曜日は、ここの中地区公民館の「美鈴会」です。楊名時太極拳（健康太極拳）と申します。一中地区公民館発足と共に始まりました。もう三十年になります。指導者は現在で四代目、初代



ておいでです)

「美鈴会」の名前の由来は、初代鈴木まさ先生に依ります。

会員の年代は、発足当時からの方もおられ、九十才から六十代までと若干高めです。でも、皆様若々しくさつそつと為さっています。私は、飯田先生と県民大学の講座を一緒にしたのをきっかけに入会しました。

最初は何も分からず不安になりましたが、「三年経って覚えればいいのよ。焦らなくていいのよ。止めないで続ける事が大切なのよ。」と言って頂き、とても安堵して続ける事が出来ました。本当に皆様良い方ばかりで和やかな雰囲気で行っています。私共は楊名時健康太極拳「二十四式」は無音の状態での呼吸を感じながら行っています。

最初に「練功十八法」「立禅」「用手」(スワイショウ)「八段錦」「太極拳二十四式」で前半終了。休憩、部分稽古のあと「二十四式」「立禅」「用手」(スワイショウ)「終わりの挨拶」となります。

部分稽古は太極拳二十四式の各々の役目、手足の動かし方、呼吸の仕方等、実技のお手本と共にとても丁寧に論理的に教えて頂き分かりやすいです。

太極拳の理念は健康。友好。平和。真の健康を得るための条件として、「調心。調息。調身」、つまりは、「心を平らかにし、呼吸で精気を養い、心身の統一をはかる」という事です。まだまだ種々有りますが、深く考えずに身体を動かしていると、単純に気がめぐり楽しいです。

どうぞお気軽に水曜日午前中御見学にお出掛け下さい。是非一緒に楽しみませんか!!

貴重な施設、公民館

ラタンの会 保木元 智香子

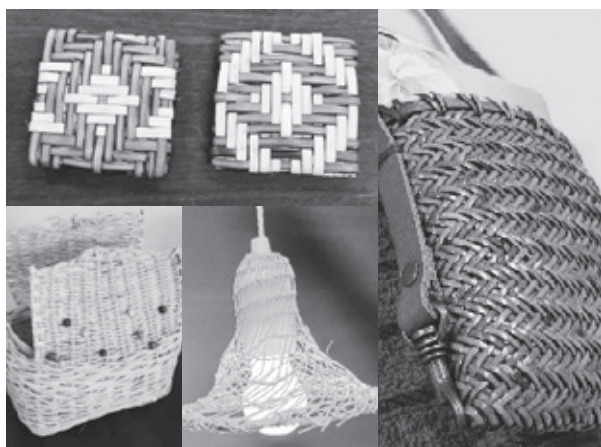
ラタンの会として公民館活動が始まって十数年。一中地区公民館にて、午前10時〜午後3時に、会員それぞれがアクセサリーやバック、籐小物等のオンラインワンな物作りを楽しん

でいるのんびりとした会です。

数年前、コロナと言うとんでもないパンデミックに見舞われ、世界中時が止まってしまった様な異常事態。何処の施設も使用禁止、閉鎖と、行き場を無くし学ぶ場をなくしました。

少しずつ世の中が落ち着きを取り戻し、ラタンの会も久し振りに公民館に集まれる様になった時、改めて、以前と変わりがなく、人々が気兼ねなく集まれる場所、公民館が在る事は決して当たり前の事ではないと言う事に気付かされました。

最近、公民館にて、会員が体調不良になった際に、公民館職員の方々が介抱してくださり、その節は本当



にありがとうございました。この場をお借りして、優しく心温まる対応に、改めて感謝申し上げます。

ラタンの会は一中公民館での活動ですが他の地区の公民館、施設でも夫々ステキなふれあいエピソード等一杯あるのではないのでしょうか？

技術向上の為の情報交換の場というだけではなく、心の交流の場として集える公民館。近頃では中々部屋取りも熾烈な競争合戦の様で、会長にはご苦労をお掛けしています：ファイト！

「おはようございます」「ありがとうございました」と、当たり前の日常が続いてくれる事を祈りつつこれからも活動を進めさせていただきたいと思います

職員の皆様にはいつも気持ち良く使用させて頂きありがとうございます。此れからも宜しくお願い致します。

令和六年度環境部活動

環境部長 文京町 中川 恵子

一中地区市民委員会環境部は各町内から選出された専門委員で構成されています。去る五月十二日の専門部会において今年度の事業内容を検討、また各町内の課題を話し合います。

した。今年度の事業は

1. 花いっぱい運動への参加
2. 花火大会後の清掃活動
3. 公民館まつりの参加
4. 研修会

です。

花いっぱい運動は、市がお配りしたマリーゴールドやサルビアなどの苗を中心に、各団体の皆さまが丹精を込めて育てた素晴らしい花壇を市民の方に見ていただき、まちづくりをする活動です。今年は猛暑が続く花壇の手入れはご苦労されたと思います。先日、花いっぱいコンファールの表彰式があり、一中地区からも表彰された団体がありました。今回で五十三回目になるそうです。

土浦花火大会後の清掃では昨年度は各町内から多くの方が参加して下さいました。花火の翌日、桜川の河川敷や近隣の町内には分別されていないごみが沢山捨てられています。今年も皆様のご協力をお願いいたします。

公民館まつりでは、ペットボトルや空き缶の回収を通してごみの分別や資源化を呼びかけます。

以上が、前年度からの継続事業です。その他研修会は安全部会と合同で企画しています。

一中地区は桜川と新川が流れ、市役所や土浦駅がある市の中心部です。この素敵な街並みですが、残念ながら河川敷に不法投棄されたごみが、また道路にはたばこの吸い殻が捨てられ町を汚しています。これらのごみが、霞ヶ浦を汚していると思うと残念です。各町内の委員さんからもごみ集積所に分別されていないごみや、指定の袋に入っていないごみが出されて困っているという声が上がっています。

私たちの小さな行動で、ごみの減量化、資源化、環境美化が行われ花いっぱいのもちづくりを継続し住みよいまちづくりに繋がればよいと思いますので、今年度もよろしく願います。



たんぽぽこども食堂

福祉部長 立田町 中村 和子

たんぽぽこども食堂は土浦市社会福祉協議会主催の『ほぺたん食堂』に次いで2番目に発足しました。今年の9月で8年目になります。旧穴塚小学校（二〇一九年廃校）向かいの障害者福祉施設たんぽぽ作業所で開いています。郊外のため子供がひとりであるのは無理かと思いますが、ヤギ、孔雀、うさぎ、ニワトリ等小動物がたくさんおり、触れ合うことの出来る自然豊かなところで。毎月一回の開催ですが、現在が多い時で一〇〇食分を用意しています。ボランティア十二名、学生ボランティア三、四名で活動しています。学生さんがいると明るく、活気があり、子供たちも嬉しそうです。コロナ前は会食形式でしたが、今は会食とお弁当配布の併用をしています。顔見知りのママ友同士で食事をする方や近隣の友達同士で会話を楽しんでいく方が増えてきました。

土浦市のこども食堂は現在11ヶ所あります。各地区公民館や私施設等で開いており、そこでは学習支援や子育て支援等を行っています。

たんぽぽこども食堂は毎年12月に



クリスマスお楽しみ会を開催しています。今年は12月8日（日）に実施予定で、腹話術、マジック、缶バッチやバルーン風船作り等盛りだくさんの参加型イベントを計画しています。プレゼントも用意しています。これらを実施できるのも社会福祉協議会、全国こども食堂支援センターむすびえ、各企業や個人の方からの食材の寄付や助成金のおかげと感謝しております。

こども食堂に一度も来たことがない方は是非おいで下さい。おひとりでも大歓迎です。たんぽぽこども食堂が地域の居場所や交流の場としてお役にたてるよう引き続き頑張っていきたいと思っています。

電城俳句会

太鼓打つ二の腕太し雲の峰

飯島 政和

炎天や重機置場の錆匂う

野口 輝子

「あの日から三ヶ月だね」迎え盆

土井 直子

仲秋の月が眼になる龍の雲

古澤 祥子

ネモヒラや海へ空へと溶けゆきて

高橋 百合枝

信号機 赤にクラクラ酷暑かな

鈴木 みち子

短歌

彼岸過ぎても酷暑き残暑続きいて自然への畏敬あらため思いぬ

井上 寛江

『土浦病院』閉じ小川芋銭の書を背に新生児記念写真は幻と消ゆ

櫻井 雅江

まぼろしの予科練のこゑ聴く真昼霞ヶ浦に白波の立つ

瀬古澤 和子

風除けの洞で休めるモンキチヨウ土手の桜も古木となりて

齋藤 順子

大空に絡んだ糸は引きちぎり両手広げて夕陽を送る

桑田 今日子

編集後記

いつも「電城」をご愛読頂きまして有り難うございます。今まで「電城」の誌面は、大きな文字や表紙のカラー化など読み易さを高めてまいりましたが、これからも皆様方に楽しまれる誌面をお届け致したく、この度、皆様方のお声を聞かせて頂くアンケートを実施致します。裏面

よりご協力をお願い致します

(K・O)

(本号の編集担当者)

小野村 一博／田中 久美子

新井 幸男／石川 幸子

梅木 逸夫／大屋 潤

宮口 五郎／山本 敦子

横山 光栄

社会福祉コーナー

子供の集いの場

「あさがおサロン」を開設して

文京町 橋本 久美子

昨年六月に社協中央支部の森川さんから、一人親世帯の子供の居場所を作りたい！とのご提案が、私をはじめ中央一丁目竹中さん、桜町四丁目石川さん、新井さんに声かけられ、後期高齢者の四人で何が出来たのか暗中模索の中でスタートしました。

そして今年の六月までの一年間、何度も話し合い勉強会を重ね、その間森川さんのご指導・ご支援を受けながら、時には「子育て親としてのご意見」や「六中地区子育て応援の会」への実態見学、また赤十字子供安全法短期講習会の受講、傷害保険の加入と安全面にも万全の体制を取り、ゼロからのスタートの中で準備を行ってきました。

この間、準備資金を作るための方策として、NPO法人スポーツ支援センターや社協本部職員及び地域の方々のご協力を得て、子供服の寄付を沢山頂き、昨年度の「公民館まつ

り」にて「子供服おさがり市」バザーを出店し少額ながら準備資金を得ることが出来ました。

そして、今年七月六日に「一中地区子育て世帯を応援する会」を正式名称として立ち上げました。

まず活動の一番目として、夏休み期間中に週二回（火・金）、子供の集いの場「あさがおサロン」の開設を決めました。

スタッフを集めるために、社協中央支部の森川さんが、民生委員・児童委員の方々と、近隣の土浦一高、つくば国際大学、アール医療専門学校へボランティア活動としてのご協力を働きかけてくださり、幸いに大人八名と学生さん約四十名の方々が活動に協力して頂くこととなり、同時に、土浦小学校に希望者の募集を依頼し快く承諾を頂くこともでき、想像以上の七十四名の応募を頂き、ついに七月二十三日にスタート致しました。

初日は、なんと三十名の子供達が来館し予想外でした。その後も寄付して頂いた、ゲーム遊び・トランプ・レゴ・折り紙・オセロなどで仲良く遊んでおり、学生ボランティアの好意で宿題や学習教室も行い、更に三回・五回・七回と節目にはプ

レゼント、又寄付金で購入したお菓子や寄付されたキュウリ、スイカ等おやつも出すことが出来ました。

期間中、対応して頂いたスタッフ及び学生ボランティアの皆さんが子供達に好意的に接する姿にも感謝です。

そして何よりも嬉しかったのは、親御さんから「こうした場を設けて頂き有り難く助かりました」との声を頂いたことであり嬉しい限りでした。

昨今、このような機会が少なくなり「あさがおサロン」を開設し本当に良かったと感じています。



「亀城」アンケート

いつも「亀城」をご愛読頂きまして有り難うございます。

もっと皆様に楽しんで読んで頂けますよう、皆様の声を誌面に反映させたく、左の二次元コードよりアンケートへのご回答をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

質問は4項目で回答時間は5分程度です。どうぞよろしくお願い致します。

